

高度な工学知識を兼ね備えた エンジニア・パイロット®になるろう。

先進工学部

機械理工学科

航空理工学専攻

POINT 1

工学の知識と飛行操縦スキルを修得し、
「エンジニア・パイロット®」になる

エンジニアを養成する機械理工学科に設置される本専攻。機械理工学科のカリキュラムを履修しながら、パイロットになるための飛行操縦訓練を積んでいきます。将来「エンジニア・パイロット®」として国内外の航空業界で活躍できるスキルが身につきます。

*「エンジニア・パイロット」は工学院大学の登録商標です。

POINT 2

エアラインパイロットをめざすコースをはじめ
目的やニーズに応じた多彩な訓練コースを設置

日本航空(株)(JAL)と連携した高品質な養成課程で訓練を行う「エアラインパイロット指定校推薦コース」をはじめ、国内のみで訓練を行う「国内ライセンスコース」や、海外+国内で訓練を行うコースなど、様々なニーズに対応した多彩な訓練コースを設置しています。

固定翼と回転翼の違い

航空機は翼の違いによって大別されます。翼と機体が一体となっている航空機が固定翼。飛行機やグライダーなどが該当します。回転翼はヘリコプターに代表されるプロペラ状の翼を持つ航空機を指します。



これまで狭き門とされてきたパイロットへの道ですが、世界的な航空需要の増大に伴ってニーズが高まる今、空へのあこがれを実現させる絶好の機会。費用や語学力などのハードルも、独自のカリキュラムでバックアップします。

POINT 3

日本国内と海外で飛行操縦訓練
グローバル感覚も養われる

実際の飛行操縦訓練は、固定翼と回転翼のいずれも海外*で行うことができるコースを併設。日本国内とは自然や気候の異なる環境下を飛び、実践を通じてたしかな操縦技術を学ぶこともできるほか、語学力や海外環境への適応力など、国際社会等で活躍するための素地も養われます。

*留学時の留学国・海外情勢等により実施できないこともあります。

*海外(米国)で操縦訓練を実施する訓練コース(エアラインパイロット指定校推薦コースについては、別途、訓練参加に必要な要件があります)に参加するには、米国提携フライトスクールによる英会話能力確認試験に合格し、フライトスクールの入学手続開始時までに、TOEIC® Listening&Reading Test 405点以上を取得すること(証明書提出)が必要です。また、資格取得のための飛行訓練および各種試験(筆記、口述、実技、無線等)は、すべて英語で行われ、かつ、渡航前の事前教育は主に英文テキストが用いられるなど、相当の英語力が必要となるため、渡航前より推奨英語能力レベルを設定しています。

ハイブリッド留学®プログラムを活用

海外および国内の訓練では、本学独自のハイブリッド留学®プログラムを適用※3。機械理工学科のカリキュラムの妨げにならない時期に設定しているので、安心して訓練に取り組みます。

*「ハイブリッド留学」は工学院大学の登録商標です。

POINT 4

専門知識を生かすことで
さまざまな進路が拓ける

本専攻では、機械理工学科のカリキュラムを履修するため、卒業後の進路はパイロットに限らず幅広く確保されています。操縦訓練は、ハイブリッド留学®期間や長期休暇中に実施されるため、学業との両立が可能であり、基礎学力をしっかりと身につけながら専門性を高めることができます。近年、航空業界ではパイロットだけでなく、整備・技術・運航支援など多様な分野で人材需要が高まっており、本専攻で培う知識と技能は幅広い進路につながります。パイロットを志す場合は、自家用操縦士免許の取得を第一段階とし、その後、事業用操縦士免許の取得へと段階的に進んでいきます。また、自家用操縦士免許取得後に卒業研究へ進み、機械系エンジニアとして就職する道や大学院進学といった選択も可能です。万が一、途中で進路を見直す場合でも、工学分野での学びを活かし、安定した進路選択ができる体制を整えています。本専攻は、将来の選択肢を広く確保しながら、一人ひとりの進路実現を着実に支援します。

航空理工学専攻で取得をめざす資格



<p>ピストン/タービン</p> <p>航空無線通信士</p> <p>航空従事者国家資格のうちの一つ。等級の区分および限定はない。航空機に乗り込んで無線設備の操作(受信を含む)を行うのに必要な資格。</p> <p>【生かせる仕事】 ・航空会社のパイロット ・航空管制官 など</p>	<p>ピストン/タービン</p> <p>航空英語能力証明</p> <p>民間航空における事実上の国際言語である航空英語のスキルを修得していることの証。日本と外国の間を航行するのに必要。</p> <p>【生かせる仕事】 ・航空会社のパイロット ・航空管制官 など</p>	<p>タービン</p> <p>ICAO 自家用操縦士※1</p> <p>ICAO(国際民間航空機関)加盟国発行の操縦士の資格。報酬を受けずに無償の運航を行う自家用航空機の操縦に必要な資格。</p> <p>【生かせる仕事】 ・自社機の操縦</p>	<p>タービン</p> <p>FAA 事業用操縦士※2</p> <p>米国連邦航空局(Federal Aviation Administration)が発行する操縦士の資格。計器飛行証明(IFR)や認定インストラクター(CFI)の取得によって、米国のエアラインへの就職も可能。</p> <p>【生かせる仕事】 ・アメリカで旅客機のパイロット など</p>	<p>タービン</p> <p>FAA 計器飛行証明※2</p> <p>米国連邦航空局が発行する高度や位置、針路の測定をする計器を使用した飛行に必要な資格。</p> <p>【生かせる仕事】 ・アメリカで旅客機のパイロット など</p>	<p>タービン</p> <p>FAA CFI (飛行教官)※2</p> <p>米国で無資格者に飛行訓練を行うことができる資格。</p> <p>【生かせる仕事】 ・アメリカでフライトインストラクター など</p>
--	---	---	--	---	--

※1 留学時の留学国・海外情勢等の事情により実施できないこともあります。【基本はFAA(米国)での実施を想定しています】
※2 留学時の米国や米国連邦航空局、提携フライトスクールおよび海外情勢等の事情により実施できないこともあります。

<p>ピストン</p> <p>JCAB 航空従事者技能証明(自家用操縦士)※4</p> <p>航空従事者国家資格のうちの一つで、報酬を受けずに無償の運航を行う航空機の操縦に必要な資格。ICAO自家用資格は日本の法規の試験をパスすればJCAB自家用に書き換え可能。</p> <p>【生かせる仕事】 ・自社機の操縦</p>	<p>タービン</p> <p>JCAB 航空従事者技能証明(事業用操縦士)※4</p> <p>航空従事者国家資格のうちの一つで、報酬目的での運航といったプロパイロットとして必要最低限の資格です。</p> <p>【生かせる仕事】 ・エアラインのパイロット</p>	<p>タービン</p> <p>JCAB 多発限定変更※4</p> <p>エンジンの数が一つのものから二つ以上のものを多発と呼び、小型機に多い単発を取得した後、多発へと変更することができます。</p> <p>【生かせる仕事】 ・旅客機の操縦 など</p>	<p>タービン</p> <p>JCAB 計器飛行証明※4</p> <p>高度や位置、針路の測定をする計器を使用した飛行に必要な資格。</p> <p>【生かせる仕事】 ・エアラインのパイロット</p>	<p>タービン</p> <p>JCAB 操縦教育証明(飛行教官)※4</p> <p>JCABが発行する日本国内で無資格者に飛行訓練を施す際に必要な資格。</p> <p>【生かせる仕事】 ・日本で飛行教官 など</p>
--	---	---	--	---

※3 操縦訓練を行うには本学が定めるハイブリッド留学®プログラムの参加要件を満たす必要があります。
※4 JCAB(Japan Civil Aviation Bureau)とは日本の国土交通省航空局のこと。

航空業界を支える！ パイロットになるための資格と 航空理工学専攻の意義

パイロットになるには、どうしたら良いですか？

航空会社のパイロットになるには、大きく3つの方法があります。

- ①航空会社が未経験の人を対象に募集する自社養成パイロット（運航乗務員訓練生）の採用試験に応募する方法です。入社後に訓練を受けライセンスを取得するため、出身学科や専攻は問いませんが、非常に狭き門です。
- ②国が設立した唯一の公的な操縦士教育訓練機関である独立行政法人航空大学校に進学し、事業用操縦士などのライセンスを取得した後、航空会社の有資格者（ライセンサー）採用試験に応募する方法です。
- ③大学や専門学校の操縦学科やパイロット養成コースで訓練を積み、ライセンスを取得して航空会社の有資格者（ライセンサー）採用試験に応募する方法です。

パイロットになるには、どんな資格が必要ですか？

パイロットとして航空の世界へ飛び立つためには、国土交通大臣の技能証明（ライセンス）を受け、必要な資格を取得することが求められます。

主な資格は「自家用操縦士」「事業用操縦士」「定期運送用操縦士」の3種類があり、それぞれ操縦できる範囲や用途が異なります。

さらに、エアラインのパイロットになるには「事業用操縦士」や「定期運送用操縦士」のライセンスが必要です。その他にも、運航路線ごとの「機長路線資格」や機種ごとの「型式証明資格」、無線機やレーダーを操作するための「航空無線通信士」や「航空英語能力証明」（国際線に乗務するには、6段階中4以上の英語レベルが必要）なども求められます。

「事業用操縦士」などの免許を取得するには、大学や専門学校の操縦学科やパイロット養成コース、航空大学校で訓練を積み取得することが可能です。

パイロットになるには、どんな勉強が必要ですか？

パイロットになるには、航空機の仕組みや気象、飛行方法、通信の仕方や法律など、さまざまな内容を勉強する必要があります。数学や理科などの理系の科目が大事ですので、苦手意識を持たずに取り組むことをおすすめします。

技能証明（ライセンス）を受けるには、学科試験と実地試験の両方に合格しなければなりません。学科試験では、航空工学、航空気象、空中航法、航空通信、航空法規などについて問われます。実地試験では、実際に航空機を操縦する技術が評価されます。また、健康状態を証明する航空身体検査証明書や航空無線を使うための免許も必要です。

機械理工学科に「航空理工学専攻」が設置されている意義は、航空分野における高度な技術と知識の習得を促進し、航空産業の発展に貢献することにあります。本専攻では、航空機的设计・開発・運用に必要な機械工学の基礎から応用技術までを体系的に学ぶことができます。

航空理工学専攻が 先進工学部 機械理工学科に 設置される理由

機械理工学科では、パイロットに必要な技能証明（ライセンス）を受けるために必要な専門知識の基礎を身につけることが可能です。物理や数学、コミュニケーション英語の講義に加え、流体力学や機械力学、熱力学や材料力学、工業力学などの専門的な科目を開講しています。

》》流体力学とパイロットの関連性

流体力学は、空気や水の流れや動きを科学的に解き明かす学問です。例えば、飛行機の翼の上と下で空気の流れが変わることで生まれる揚力（飛行機を持ち上げる力）や、風や乱流による揺れなどを予測し、コントロールするために使われます。流体力学を学ぶことで、目には見えない空気の動きを理解し、より安全で効率のよい飛行や機体の設計につなげることができます。

機械理工学科 航空理工学専攻で開講される講義
流体力学I、流体力学II、航空熱流体工学

》》機械力学とパイロットの関連性

機械力学は、物体が力を受けてどのように振動したり、変形したりするのか等を学ぶ学問です。例えば、操縦操作や風力によって機体がどう振動するのか、また、振動由来の騒音発生について理解するのに役立ちます。

機械理工学科 航空理工学専攻で開講される講義
機械力学、航空振動工学

》》熱力学とパイロットの関連性

熱力学は、エネルギーのやり取りや温度、圧力の関係を学ぶ学問です。例えば、エンジンが適切に動き続けるためには、燃料を燃やしてエネルギーを生み出す過程や、発生した熱を適切に放出する仕組みを知っておく必要があります。こうした理解は、航空機エンジンの性能や効率を高めるうえで欠かせません。

機械理工学科 航空理工学専攻で開講される講義
熱力学I、熱力学II

》》材料力学とパイロットの関連性

材料力学は、物体が力を受けたときにどのように変形したり、壊れたりするのか等を学ぶ学問です。例えば、翼や胴体、尾翼などはどのくらいの力に耐えられるのか、あるいは、主翼は翼自体の重さでどのように変形するのかなど推定できます。そのため、壊れないためにはどのような形状にすれば良いのか、どのような材料を選べば良いのかを学ぶことができ、航空機の部品設計に役立ちます。

機械理工学科 航空理工学専攻で開講される講義
材料力学I、材料力学II

》》工業力学とパイロットの関連性

工業力学は、物体が力を受けたときにどう動くのか、物体に荷重がかかったときに耐えられるのか等を学ぶ学問です。例えば、操縦操作や空気抵抗によって飛行機がどう動くのか、また、緊急時に飛行機の構造や動きの仕組みを理解して適切に対応するためには、工業力学の知識が役立ちます。

機械理工学科 航空理工学専攻で開講される講義
工業力学I、工業力学II、工業力学III、工業力学IV

JCAB 事業用 国内ライセンスコース

本コース申込に際しての重要注意事項（必要条件）

固定翼（本田航空）コース

本田航空への入学に際し、入学試験（書類審査、適性検査等）があります。

- 1年次12月（本田航空入学試験出願時）までに、TOEIC® Listening & Reading Test 400点以上又は公益財団法人日本英語検定協会実用英語技能検定準2級以上の英語能力を有していること。
- 1年次12月（本田航空入学試験出願時）までに、航空身体検査証明第1種相当の基準に適合する見込みがあること。（本田航空指定医療機関での受診が必要）
- 航空特殊無線技士以上の資格を入学時まで取得すること。
- 操縦訓練の実施に伴い本田航空への入学および契約手続きが必要です。

回転翼（第一航空）コース

- 航空特殊無線技士以上の資格を入学時まで取得すること。
- 操縦訓練の実施に伴い第一航空への入学および契約手続きが必要です。

■訓練時間・期間は天候および個人の技量等により変動する場合があります。また、記載の飛行訓練時間は、あくまで平均的な訓練時間です。

■訓練時間は修得状況により個人差があり、追加費用が発生する場合があります。

■記載の飛行訓練内容、飛行訓練時間・期間および訓練費は、2026年5月1日時点のものです。今後、諸状況により予告なしに変更、追加することがあります。

- 取得できる免許・資格
- ✈️ JCAB自家用資格
 - ✈️ JCAB事業用・多発限定変更・計器飛行証明・飛行教官（操縦教育証明）資格
 - 🚁 JCAB自家用ピストン資格
 - 🚁 JCAB事業用・飛行教官（操縦教育証明）タービン資格

1年次 10-1月 訓練開始に向けて、各種の学科試験対策や無線資格取得に向けた学習を各自で実施

2年次

3年次

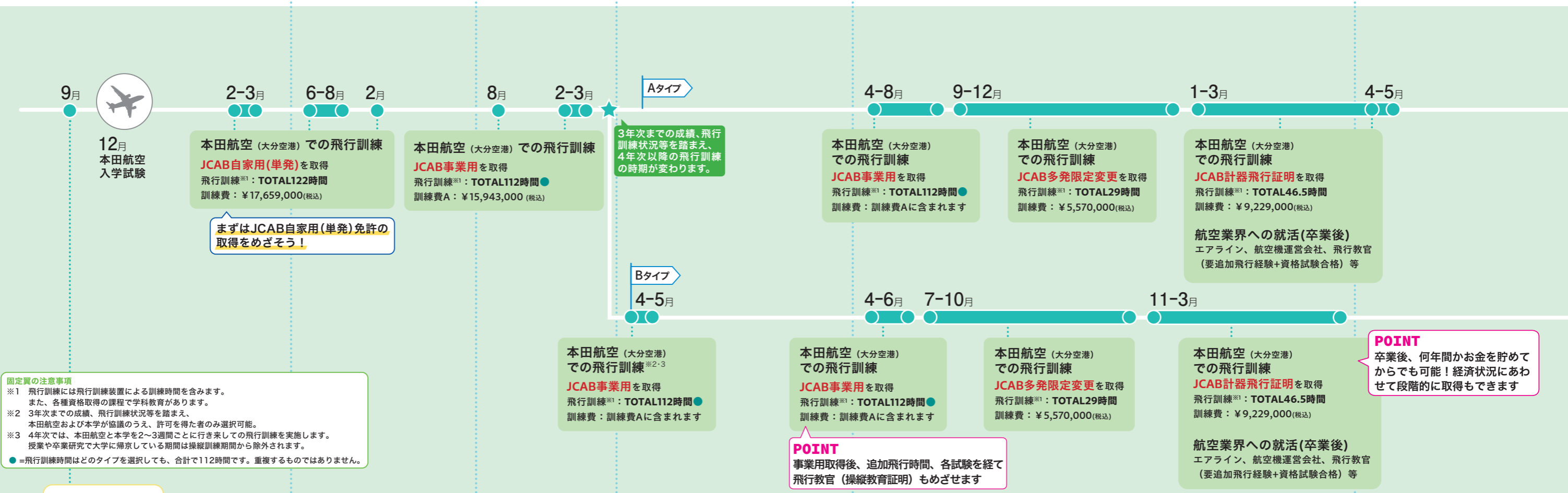
4年次

3月 学士号取得

卒業後 1年目

2年目

固定翼



固定翼の注意事項

※1 飛行訓練には飛行訓練装置による訓練時間を含みます。また、各種資格取得の課程で学科教育があります。

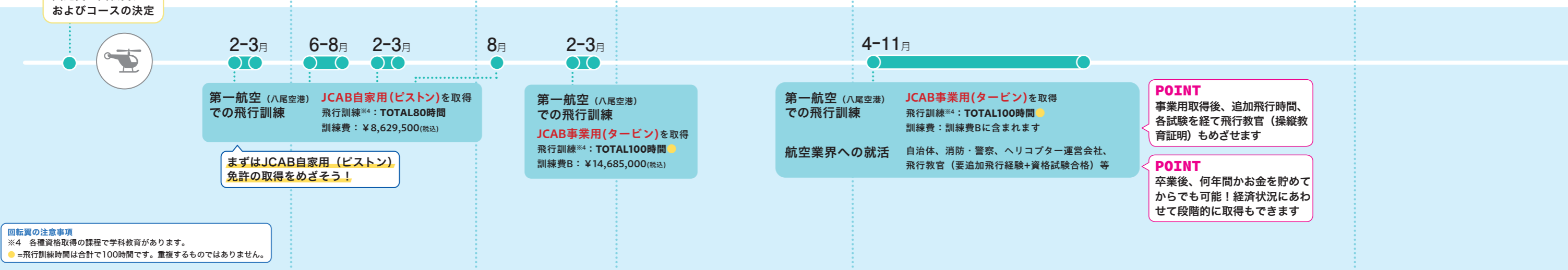
※2 3年次までの成績、飛行訓練状況等を踏まえ、本田航空および本学が協議のうえ、許可を得た者のみ選択可能。

※3 4年次では、本田航空と本学を2~3週間ごとに行き来しての飛行訓練を実施します。授業や卒業研究で大学に帰京している期間は操縦訓練期間から除外されます。

●=飛行訓練時間はどのタイプを選択しても、合計で112時間です。重複するものではありません。

固定翼か回転翼、およびコースの決定

回転翼



回転翼の注意事項

※4 各種資格取得の課程で学科教育があります。

●=飛行訓練時間は合計で100時間です。重複するものではありません。

JCAB 事業用 国内ライセンス指定養成コース

本コース申込に際しての重要注意事項（必要条件）

- 1年次12月(本田航空入学試験出願時)までに、TOEIC® Listening & Reading Test 400点以上又は公益財団法人日本英語検定協会実用英語技能検定準2級以上の英語能力を有していること。
 - 1年次12月(本田航空入学試験出願時)までに、航空身体検査証明第1種相当の基準に適合する見込みがあること。(本田航空指定医療機関での受診が必要)
 - 航空特殊無線技士以上の資格を入学時までに取得すること。
 - 操縦訓練の実施に伴い本田航空への入学および契約手続が必要。
 - 訓練時間・期間は天候および個人の技量等により変動する場合があります。また、記載の飛行訓練時間は、最短期間となっています。訓練時間は修得状況により個人差があり、追加費用が発生する場合があります。○ただし、本コースは指定航空従事者養成施設での訓練となり、追加訓練に対する許容時間が各課程で定められています。許容時間内で課程を修了できなかった場合は、コースアウト*となります。
 - 学科試験、実技審査ともに、2回での合格が課せられます。2回目で不合格となった場合はコースアウト*となります。
 - 記載の飛行訓練内容、飛行訓練時間・期間および訓練費は、2026年5月1日時点のものです。今後、諸状況により予告なしに変更、追加することがあります。
- *コースアウト後に法令で定められた飛行経験を充足することで、JCAB試験を受験しライセンスを取得することは可能です。

取得できる免許・資格  ■JCAB事業用・多発限定変更・計器飛行証明・飛行教官（操縦教育証明）資格

1年次

10-1月
訓練開始に向けて、各種の学科試験対策や無線資格取得に向けた学習を各自で実施

2年次

3年次

4年次

3月
学士号取得

卒業後



12月
本田航空
入学試験

2-3月

6-8月

2月 3月

8月

2-3月

本田航空（大分空港）での飛行訓練
事業用操縦士課程（PHASE 1）
飛行訓練^{※1}：TOTAL79.5時間
訓練期間：約4.5ヶ月
訓練費：¥12,281,000(税込)

本田航空（大分空港）での飛行訓練
事業用操縦士課程（PHASE 2）
飛行訓練^{※1}：TOTAL75.5時間
訓練期間：約4.0ヶ月
訓練費：¥10,984,000(税込)

Aタイプ

3年次までの成績、飛行訓練状況等を踏まえ、4年次以降の飛行訓練の時期が変わります。

POINT
事業用取得後、追加飛行時間、各試験を経て飛行教官（操縦教育証明）もめざせます

4-10月

本田航空（大分空港）での飛行訓練
事業用操縦士課程（PHASE 3）
飛行訓練^{※1}：TOTAL41時間
訓練期間：約3.5ヶ月
訓練費：¥8,066,000(税込)

本田航空（大分空港）での飛行訓練
計器飛行証明課程
飛行訓練^{※1}：TOTAL45.5時間
訓練期間：約3.5ヶ月
訓練費：¥9,545,000(税込)
航空業界への就活（卒業後）
エアライン、航空機運営会社、飛行教官（要追加飛行経験+資格試験合格）等

Bタイプ

4-5月

本田航空（大分空港）での飛行訓練^{※2・3}
事業用操縦士課程（PHASE 3）
飛行訓練^{※1}：TOTAL41時間
訓練期間：約3.5ヶ月
訓練費：¥8,066,000(税込)

POINT
事業用取得後、追加飛行時間、各試験を経て飛行教官（操縦教育証明）もめざせます

4-7月

本田航空（大分空港）での飛行訓練
計器飛行証明課程
飛行訓練^{※1}：TOTAL45.5時間
訓練期間：約3.5ヶ月
訓練費：¥9,545,000(税込)

航空業界への就活（卒業後）
エアライン、航空機運営会社、飛行教官（要追加飛行経験+資格試験合格）等

Cタイプ

4-9月

本田航空（大分空港）での飛行訓練^{※2・3}
事業用操縦士課程（PHASE 3）
飛行訓練^{※1}：TOTAL41時間
訓練期間：約3.5ヶ月
訓練費：¥8,066,000(税込)

本田航空（大分空港）での飛行訓練^{※2・3}
計器飛行証明課程
飛行訓練^{※1}：TOTAL45.5時間
訓練期間：約3.5ヶ月
訓練費：¥9,545,000(税込)

POINT
事業用取得後、追加飛行時間、各試験を経て飛行教官（操縦教育証明）もめざせます

航空業界への就活
エアライン、航空機運営会社、飛行教官（要追加飛行経験+資格試験合格）等



指定航空従事者養成施設とは？

航空法施行規則に定められた技術基準に適合し、国土交通省から指定を受けた操縦士等の養成施設であり、その課程を修了した者に対しては、国による実地試験の全部又は一部を行わないことができるとされています。

※1 飛行訓練には飛行訓練装置による訓練時間を含みます。また、事業用操縦士、計器飛行証明課程それぞれにおいて、学科教育があります。
※2 3年次までの成績、飛行訓練状況等を踏まえ、本田航空および本学が協議のうえ、許可を得た者のみ選択可能。
※3 4年次では、本田航空と本学を2～3週間ごとに行き来しての飛行訓練を実施します。授業や卒業研究で大学に帰京している期間は操縦訓練期間から除外されます。

JCAB 事業用 海外ライセンスAコース

1年次

11-5月
海外提携フライトスクールが実施する
英会話能力確認試験合格後、渡米までの期間、
FAA 自家用ライセンス取得のための
学科試験対策や英語学習を各自で実施
(訓練コースごとに特別授業等を実施する場合があります)

2年次

6-8月
先進工学部
ハイブリッド留学*

3年次

2月-4年次5月

4年次

3月
学士号取得

卒業後

POINT
卒業後、何年間かお金を貯めて
からでも可能! 経済状況にあわ
せて段階的に取得もできます

本コース申込に際しての重要注意事項 (必要条件)

固定翼

- 本田航空への入学に際し、入学試験(書類審査、適性検査等)があります。
- 本田航空入学試験出願時までに、TOEIC Listening & Reading Test 400点以上又は公益財団法人日本英語検定協会実用英語技能検定準2級以上の英語能力を有していること。
- 本田航空入学試験出願時までに、航空身体検査証明第1種相当の基準に適合する見込みがあること。(本田航空指定医療機関での受診が必要)
- 航空特殊無線技士以上の資格取得および航空従事者等学科試験(自家用操縦士の「法規」科目)の合格が入学時までに必要です。
- 操縦訓練の実施に伴い本田航空への入学および契約手続きが必要です。

回転翼

- 航空特殊無線技士以上の資格取得および航空従事者等学科試験(自家用操縦士の「法規」科目)の合格が入学時までに必要です。
- 操縦訓練の実施に伴い第一航空への入学および契約手続きが必要です。
- 訓練時間・期間は天候および個人の技量等により変動する場合があります。また、記載の飛行訓練時間は、あくまで平均的な訓練時間です。訓練時間は修得状況により個人差があり、追加費用が発生する場合があります。
- 留学時の米国や米国連邦航空局、提携フライトスクールおよび海外情勢等の事情により実施できない場合があります。※
- 渡航に際し、ビザの取得ができない場合は本コースで訓練を受けることができません。※
- 渡航の際に必要なビザ申請において、操縦訓練費用(総額)や滞在期間中に必要な生活費など、米国滞在中のあらゆる費用を賄う十分な資金があることを証明する預金残高証明書の提出が必要です。
- 渡航(米国内での操縦訓練)に際し、FAA Medical Certificate(3rd class以上)の取得が必要です。診断書の取得ができない場合は本コースで訓練を受けることができません。※
- 渡航(米国内での操縦訓練)に際し、Flight Training Security Program(FTSP)にフライトトレーニングの許可申請が必要です。飛行許可が下りない場合は本コースで訓練を受けることができません。※
- 海外提携のフライトスクール入校に際し、米国提携フライトスクールによる英会話能力確認試験に合格し、フライトスクールの入学手続開始時(1年次12月頃)までに、TOEIC® Listening & Reading Test 405点以上を取得すること(証明書提出)が必要です。
- また、資格取得のための飛行訓練および各種試験(筆記、口述、実技、無線等)はすべて英語で行われ、かつ、渡航前の事前教育も英語が主となるなど、相当の英語力が求められるため、渡航前より推奨英語能力レベル★を設定しています。
- 記載の飛行訓練内容、飛行訓練時間・期間および訓練費は、2026年5月1日時点のものです。今後、諸状況により予告なしに変更、追加することがあります。
- その他、渡航先の入国条件がクリアにならない場合には、本コースは継続できません。
- ※そのような場合、国内ライセンスコースを活用しての資格取得をめざすこととなります。これに伴い訓練費用は増額となります。

取得できる免許・資格



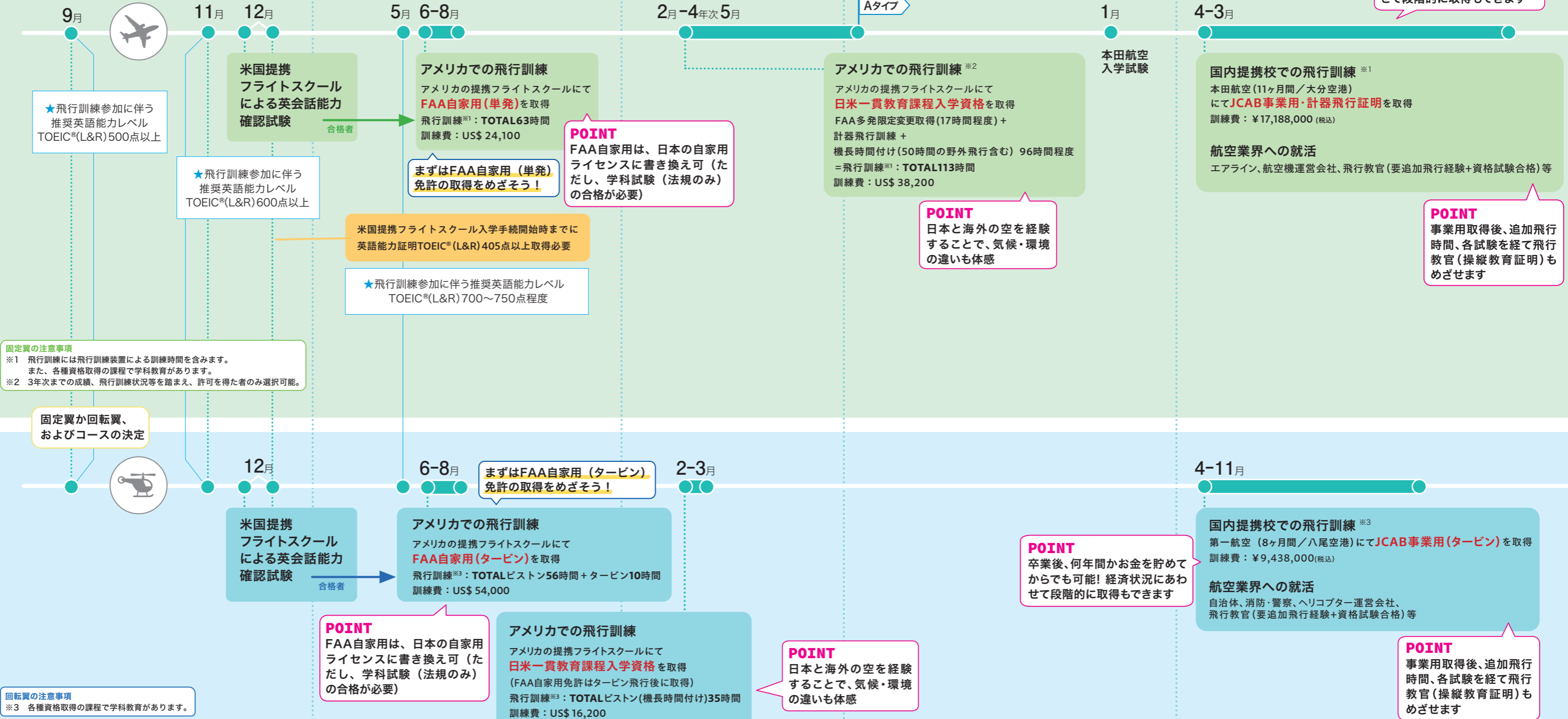
- FAAおよびJCAB自家用資格
- JCAB事業用・多発限定変更・計器飛行証明・飛行教官(操縦教育証明)資格



- FAAおよびJCAB自家用タービン資格
- JCAB事業用・飛行教官(操縦教育証明)タービン資格

固定翼

回転翼



JCAB 事業用 海外ライセンスBコース

1年次

11-5月
海外提携フライトスクールが実施する英会話能力確認試験合格後、渡米までの期間、ICAO 自家用ライセンス取得のための学科試験対策や英語学習を各自で実施(訓練コースごとに特別授業等を実施する場合があります)

2年次

6-8月
先進工学部
ハイブリッド留学*

3年次

4年次

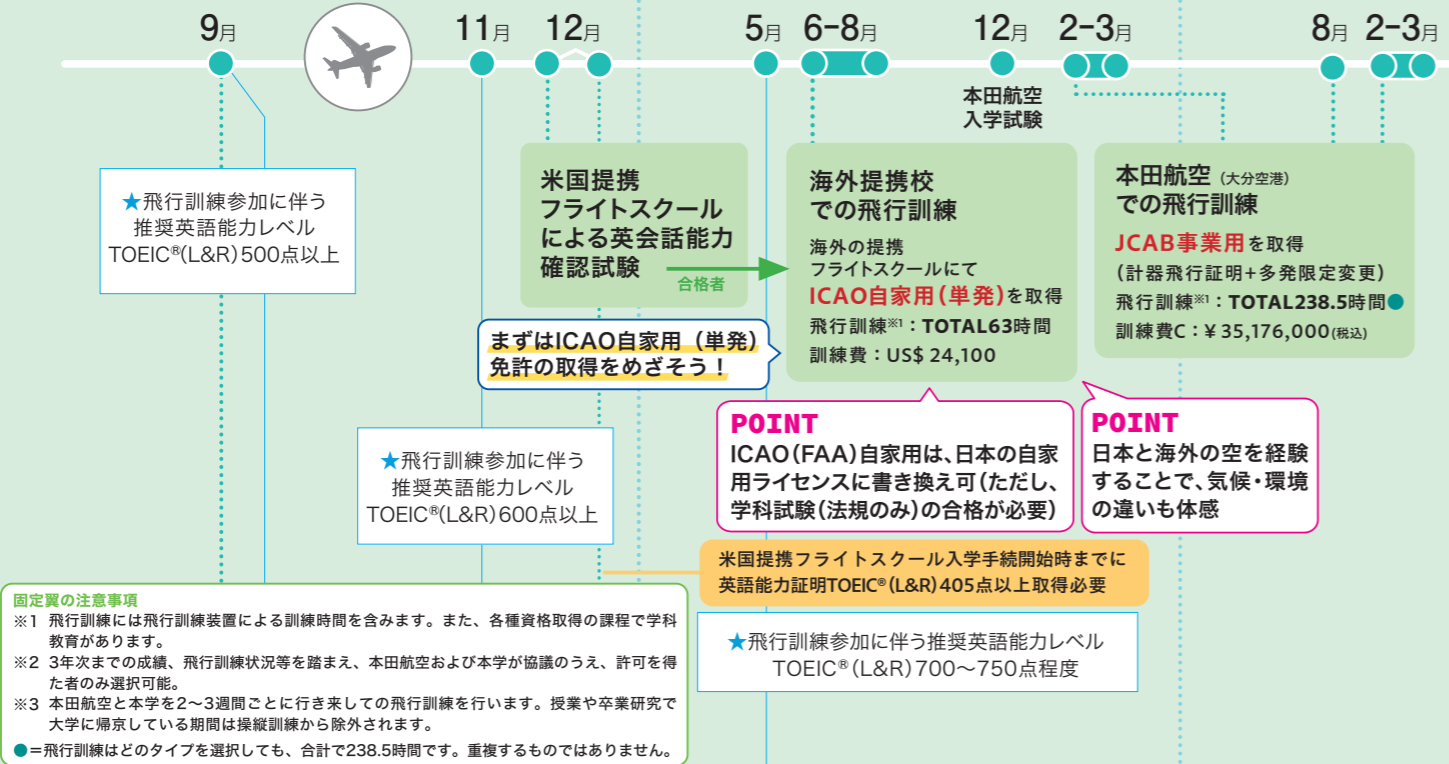
3月
学士号取得

卒業後

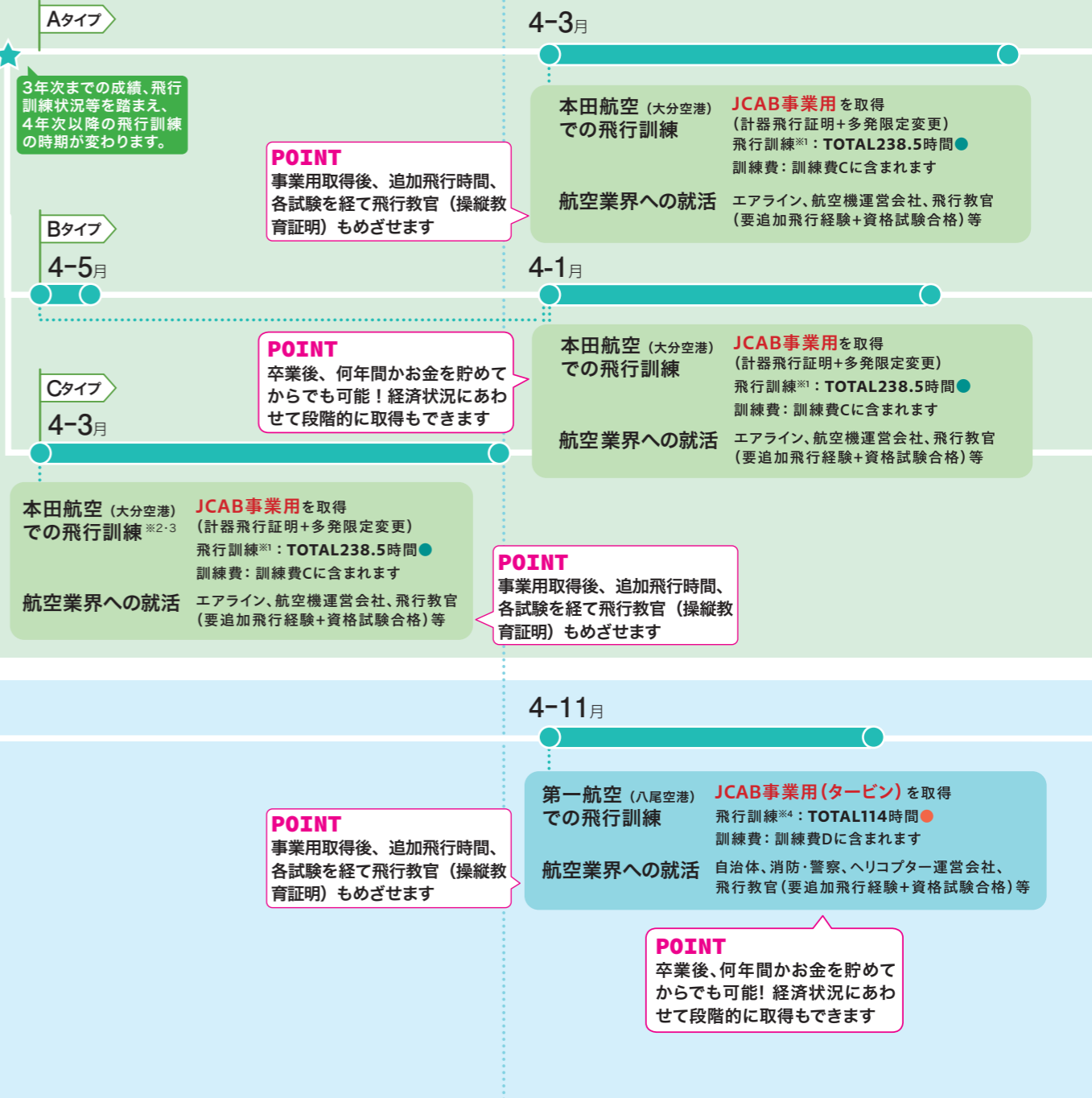
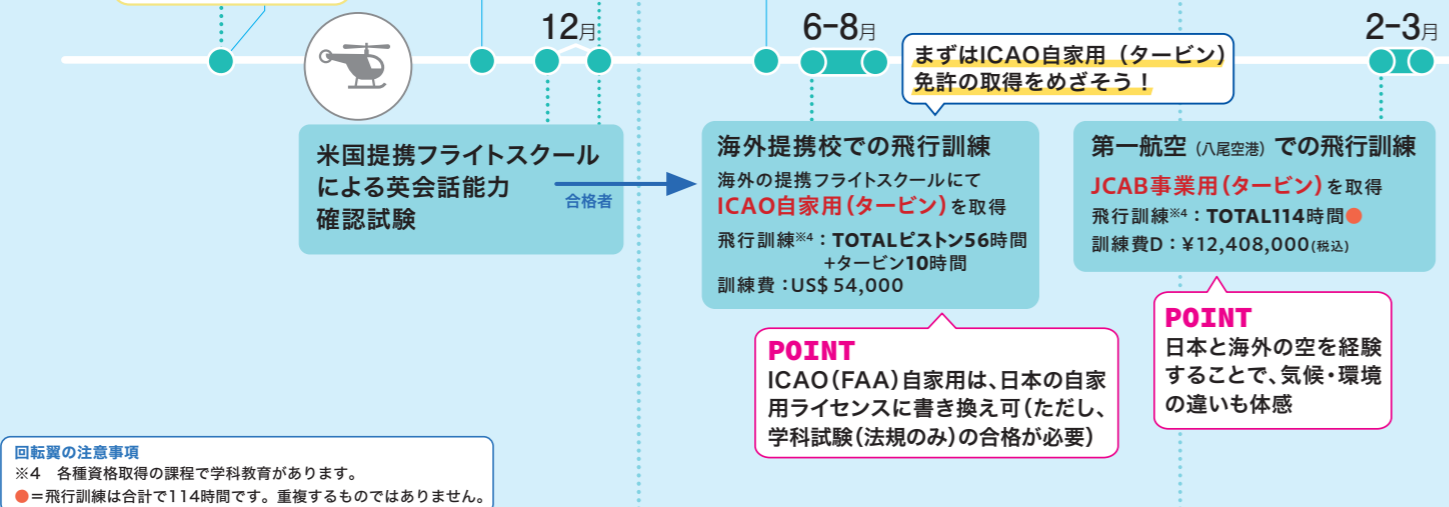
本コース申込に際しての重要注意事項 (必要条件)

- 固定翼**
- 本田航空への入学に際し、入学試験(書類審査、適性検査等)があります。
 - また、記載の飛行訓練時間、あくまで平均的な訓練時間です。訓練時間は修得状況により個人差があり、追加費用が発生する場合があります。
 - 留学時の米国や米国連邦航空局、提携フライトスクールおよび海外情勢等の事情により実施ができない場合があります。※
 - 渡航に際し、ビザの取得ができない場合は本コースで訓練を受けることができません。※
 - 渡航の際に必要なビザ申請において、操縦訓練費用(総額)や滞在期間中に必要な生活費など、米国滞在中のあらゆる費用を賄う十分な資金があることを証明する預金残高証明書の提出が必要です。
 - 渡航(米国内での操縦訓練)に際し、FAA Medical Certificate (3rd class以上)の取得が必要です。診断書の取得ができない場合は本コースで訓練を受けることができません。※
 - 渡航(米国内での操縦訓練)に際し、Flight Training Security Program (FTSP) にフライトトレーニングの許可申請が必要です。飛行許可が下りない場合は本コースで訓練を受けることができません。※
 - 海外提携のフライトスクール入学に際し、米国提携フライトスクールによる英会話能力確認試験に合格し、フライトスクールの入学手続開始時(1年次12月頃)までに、TOEIC® Listening & Reading Test 405点以上を取得すること(証明書提出)が必要です。
 - また、資格取得のための飛行訓練および各種試験(筆記、口述、実技、無線等)はすべて英語で行われ、かつ、渡航前の事前教育も英語が主となるなど、相当の英語力が求められるため、渡航前より推奨英語能力レベル★を設定しています。
 - 記載の飛行訓練内容、飛行訓練時間・期間および訓練費は、2026年5月1日時点のものです。今後、諸状況により予告なしに変更、追加することがあります。
 - その他、渡航先の入国条件がクリアにならない場合には、本コースは継続できません。
 - ※そのような場合、国内ライセンスコースを活用しての資格取得をめざすことになります。これに伴い訓練費用は増額となります。
- 回転翼**
- 航空特殊無線技士以上の資格取得および航空従事者等学科試験(自家用操縦士の「法規」科目)の合格が入学時までに必要です。
 - 操縦訓練の実施に伴い第一航空への入学および契約手続が必要です。
- 取得できる免許・資格**
- ICAOおよびJCAB自家用資格
計器飛行証明・飛行教官(操縦教育証明) 資格
 - ICAOおよびJCAB自家用タービン資格
JCAB事業用・飛行教官(操縦教育証明)タービン資格

固定翼



回転翼



飛行訓練費用

【飛行訓練費用に関する注意事項】

*記載の費用は、2026年5月1日時点のものです。今後、諸状況により予告なしに変更、追加することがあります。

*訓練時間・期間は、天候および個人の技量等により変動します。それに伴い、訓練費用や滞在費、各種保険料等も増額（追加費用が発生）します。また、訓練にかかる諸経費は、物価、航空燃料費の上昇および為替レートの変動等の事情により、追加費用が発生する場合があります。

*記載の費用に以下の内容は含まれません。一部試験費用、航空身体検査受診費用・FAA Medical Certificate取得費、ビザ取得費、フィンガープリント費用、航空機操縦練習許可申請にかかる費用、国内・海外の訓練地までの移動交通費（航空運賃等）、国内提携校の滞在費（水道光熱費含む）、海外旅行保険代、任意加入の保険代、訓練滞在中の日々の食事代、テキスト代、教材費、制服代、操縦訓練参加に伴う各種の事前準備講座受講料等。

*移動交通費（航空運賃等）や海外旅行保険代、ビザ取得費等は渡航ごとに必要です。

飛行訓練費用+経費一覧

固定翼

取得をめざす資格	資格取得までの訓練費※1	4年間の大学授業料 [非課税] (640万円想定)	合計(概算)※3
JCAB事業用 国内ライセンスコース (P.7)			
JCAB自家用(単発)+JCAB事業用(事業用+多発限定+計器飛行証明)	¥48,401,000 (税込)	¥6,400,000	¥54,801,000(税込)
JCAB事業用 国内ライセンス指定養成コース (P.9)			
JCAB事業用(事業用操縦士課程+計器飛行証明課程)	¥40,876,000 (税込)	¥6,400,000	¥47,276,000(税込)
JCAB事業用 海外ライセンスA・Bコース (P.11、13)			
FAA自家用(単発) + FAA自家用はJCAB自家用に書き換え可(ただし、学科試験【法規のみ】の合格が必要)	US\$24,100※2(¥3,615,000)		¥10,015,000
JCAB事業用 海外ライセンスAコース (P.11)			
FAA自家用(単発) + 日米一貫教育課程入学資格取得のための米国訓練費	US\$24,100※2(¥3,615,000) [FAA自家用] + US\$38,200※2(¥5,730,000)		¥15,745,000
FAA自家用(単発) + 日米一貫教育課程入学資格取得のための米国訓練費 + 国内提携校での訓練費(卒業後)	US\$24,100※2(¥3,615,000) [FAA自家用] + US\$38,200※2(¥5,730,000) + ¥17,188,000 (税込)	¥6,400,000	¥32,933,000(税込)
JCAB事業用 海外ライセンスBコース (P.13)			
FAA自家用(単発) + 国内提携校での訓練費	US\$24,100※2(¥3,615,000) [FAA自家用] + ¥35,176,000 (税込)		¥45,191,000(税込)
FAA事業用・CFIコース (P.15)			
FAA自家用(単発) + FAA計器飛行証明(卒業後) + FAA事業用(単発・多発)(卒業後) + FAA CFI(計器・多発含む)(卒業後)	US\$24,100※2(¥3,615,000)[FAA自家用] + US\$115,300※2(¥17,295,000) [FAA多発+FAA計器+FAA事業用+FAACFI]	¥6,400,000	¥27,310,000

※1 訓練期間の海外(米国)での滞在費用(寮費)を含みます(最短の滞在日数で算出)。国内提携校の滞在費用は含みません。

※2 1US\$=150円として換算

※3 国内訓練費は税込の金額です。

回転翼

取得をめざす資格	資格取得までの訓練費※1	4年間の大学授業料 [非課税] (640万円想定)	合計(概算)※3
JCAB事業用 国内ライセンスコース (P.7)			
JCAB自家用(ピストン) + JCAB事業用(タービン)	¥23,314,500 (税込)	¥6,400,000	¥29,714,500(税込)
JCAB事業用 海外ライセンスA・Bコース (P.11、13)			
FAA自家用(タービン) + FAA自家用はJCAB自家用に書き換え可(ただし、学科試験【法規のみ】の合格が必要)	US\$54,000※2(¥8,100,000)		¥14,500,000
JCAB事業用 海外ライセンスAコース (P.11)			
FAA自家用(タービン) + 日米一貫教育課程入学資格取得のための米国訓練費	US\$54,000※2(¥8,100,000) [FAA自家用] + US\$16,200※2(¥2,430,000)		¥16,930,000
FAA自家用(タービン) + 日米一貫教育課程入学資格取得のための米国訓練費 + 国内提携校での訓練費(卒業後)	US\$54,000※2(¥8,100,000) [FAA自家用] + US\$16,200※2(¥2,430,000) + ¥9,438,000 (税込)	¥6,400,000	¥26,368,000(税込)
JCAB事業用 海外ライセンスBコース (P.13)			
FAA自家用(タービン) + 国内提携校での訓練費(卒業後)	US\$54,000※2(¥8,100,000) [FAA自家用] + ¥12,408,000 (税込)		¥26,908,000(税込)
FAA事業用・CFIコース (P.15)			
FAA自家用(タービン) + FAA事業用(卒業後) + FAA CFI(卒業後)	US\$54,000※2(¥8,100,000)[FAA自家用] + US\$70,400※2(¥10,560,000) [FAA事業用+CFI]	¥6,400,000	¥25,060,000

※1 訓練期間の海外(米国)での滞在費用(寮費)を含みます(最短の滞在日数で算出)。国内提携校の滞在費用は含みません。

※2 1US\$=150円として換算

※3 国内訓練費は税込の金額です。

固定翼 エアラインパイロット指定校推薦コース



ヒルズボロ空港



ヒルズボロ空港周辺



訓練費 約 460万円

(第1期(米国)+第2期(日本)トレーニングの費用)

【訓練費に含まれるもの】

FAA自家用(単発)ライセンス取得(第1期トレーニング)のための

- 63時間の飛行訓練費用 (Simulator含む)
- 座学費用
- 3ヶ月分の滞在費用 (食事は含まず)
※寮滞在(1室2名・複数室による共同生活)
- フライトスクール入学金
- TSA Initial
- FAA flight & written examination - first attempt
- Accident & Health Insurance

約100万円
+
適性確認
フライト費用
(第2期トレーニング)

上記に記載されていない費用は含みません。一例として、FAA Medical Certificate取得費、ビザ取得費、フィンガープリント費用、訓練地(米国オレゴン州ポートランドや国内提携校)までの往復航空運賃、海外旅行保険代、任意加入の保険代、訓練滞在中の日々の食事代、航空身体検査受診費用、航空機操縦練習許可申請にかかる費用、第2・3期トレーニング実施先の宿泊料、テキスト代、教材費などは含みません。

※第1期トレーニング(米国で実施)終了後の進捗確認(第1次確認)に合格した方は、第2期トレーニング(国内で実施)参加前までに本学が定める付加的な要件を含む航空身体検査相当の健康診断に合格する必要があります(航空身体検査相当の健康診断で不合格の場合、以降の訓練を継続することはできません)。

上記の訓練費とは別に航空身体検査相当の健康診断の受診費用(12万円程度 ※再検査・追加検査費用は別途)が必要です。

※1US\$=150円として換算

※慣熟フライト(第3期トレーニング)費用は別途必要です。

自己推薦型選抜(他大学との併願可)

■入試日程

出願期間 10/1(木)～10/14(木)

試験日/試験会場 **11/8(日)** 新宿キャンパス

合格発表 11/20(金)

入学手続 12/2(水) 消印・収納印有効

■出願資格・条件

- 高等学校もしくは中等教育学校後期課程を2027年3月卒業見込みの方
- 担任または進路指導の教員より承認を受けた方(併願可)
- 高等学校もしくは中等教育学校後期課程の全体の学習成績の状況(評定平均値)が普通科、理数科で3.7以上、専門教育を主とする学科で4.2以上の方
- 物理(物理基礎・物理)、数学(I・II・III・A・B・C)を履修していること
- 実用英語技能検定(英検)CSEスコア2050以上またはTOEIC®(L&R)スコア500点以上またはTOEIC®(L&R,S&W)スコア740点以上(いずれもスコアシート原本またはコピー提出) ※2025年2月以降に実施された英語外部試験に限り、有効とします。
- 合格後、12/17(木)までに航空身体検査証明[第1種相当]の適合を証明する書類、あるいは基準に適合する見込みがあることを証明する書類を提出すること(コピー可)。
- ※2026年9月1日以降に受診・発行されたものに限る。
- 合格後、12/17(木)までに航空機操縦練習許可書のコピーを提出すること。提出時までに交付が間に合わない場合は、航空機操縦練習許可申請書のコピーを提出すること。
- オルソケラトロジーによる矯正を行っていないこと。

【注意事項】出願資格・条件などの詳細情報は、出願前に必ず入試ガイドや本学入試サイト、入学試験要項でご確認ください。

■S日程(全学統一)

出願期間 1/6(水)～1/20(木)

第一次選考日 **1/28(木)**

第一次選考合格発表 2/3(水)

第二次選考日 **2/16(火)・2/17(水)**
の指定日

第二次選考合格発表 2/26(金)

入学金納入期限 3/5(金)

学費等納入期限 3/11(木)

■B日程(中期)

出願期間 2/1(月)～2/16(火)

第一次選考日 **2/22(月)**

第一次選考合格発表 2/26(金)

第二次選考日 **3/9(火)・3/10(水)**
の指定日

第二次選考合格発表 3/18(木)

入学手続書類提出期限 3/23(火)

入学金・学費等納入期限 3/25(木)

航空理工学専攻提携校

JCAB資格取得のための国内提携校

本田航空株式会社

飛行訓練地:大分空港(大分県国東市)

1964年に創立された日本最大規模のフライングスクールとして、古くから教育事業に取り組み、数多くのプロフェッショナルを輩出。質の高いカリキュラムを通して、飛行技術だけでなく、操縦士として必要なコミュニケーションスキルを身につけます。

★ Oita



Honda Airways

第一航空株式会社

飛行訓練地:八尾空港(大阪府八尾市)

第一航空は1966年に設立された大阪府八尾空港を活動拠点に、小型操縦訓練事業や航空輸送事業を行っています。小型機の利用実績が日本一の八尾空港にて訓練を行っており、これまでに100名以上のパイロットを輩出した実績を持ちます。官公庁からの受託訓練でも高い評価を得ている会社です。

★ Osaka



First Flying

※国立大学(合格発表日が3/12(金)～3/24(水)に限る)を併願している方に限り、3/25(木)まで学費等振込の延納を願ひ出ることが出来ます。

- 開設コース
- ・JCAB事業用国内ライセンスコース
 - ・JCAB事業用国内ライセンス指定養成コース
 - ・JCAB事業用海外ライセンスAコース
 - ・JCAB事業用海外ライセンスBコース

- 開設コース
- ・JCAB事業用国内ライセンスコース
 - ・JCAB事業用海外ライセンスAコース
 - ・JCAB事業用海外ライセンスBコース

■一般選抜 入学試験科目

	入試種別	教科	科目	試験時間	配点		
第一次選考	S日程(全学統一)・A日程(前期)【3教科・3科目型】	数学	「数学(数学I, II, III, A, B, C)」	1限(90分)	100点		
		英語	「英語(英語コミュニケーションI, II, III, 論理・表現I, II, III)」	2限(70分)	100点		
		理科	「物理(物理基礎、物理)」	3限(80分)	100点		
	大学入学共通テスト利用前期日程(3教科3科目型)	数学	「数学I, A」+「数学II, B, C」			100点+100点	
		外国語	「英語」リーディング 「英語」リスニング	判定方式	「リーディング(100点満点)」を150点満点、「リスニング(100点満点)」を50点満点に換算し、計200点満点を判定に用いる。	200点	
		理科	理科	「物理」 「化学」	判定方式	いずれか1科目を判定の対象とし、200点満点に換算。「物理」「化学」のうち、第1解答科目の得点を判定に用いる。	200点
		国語	「国語(近代以降の文章のみ)」		判定方式	近代以降の文章(110点満点)を100点に換算し判定に用いる。	100点
	大学入学共通テスト利用前期日程(4教科4科目型)	数学	「数学I, A」+「数学II, B, C」			100点+100点	
		外国語	「英語」リーディング 「英語」リスニング	判定方式	「リーディング(100点満点)」を150点満点、「リスニング(100点満点)」を50点満点に換算し、200点満点を判定に用いる。	200点	
		理科	理科	「物理」 「化学」	判定方式	「物理」「化学」のうち、第1解答科目の得点を判定に用いる。	100点
		情報	「情報I」			100点	
	B日程(中期)【3教科・3科目型】	英語	「英語(英語コミュニケーションI, II, III, 論理・表現I, II, III)」		1限(70分)	100点	
数学		「数学(数学I, II, III, A, B, C)」		2限(90分)	100点		
理科		「物理(物理基礎、物理)」 「化学(化学基礎、化学)」	1科目を選択	3限(80分)	100点		
英語		「英語」リーディング 「英語」リスニング	判定方式	「リーディング(100点満点)」を150点満点、「リスニング(100点満点)」を50点満点に換算したうえで計100点満点に換算し判定に用いる。	100点		
B日程(中期)大学入学共通テストプラス型	数学	「数学(数学I, II, III, A, B, C)」		2限(90分)	100点		
	理科	「物理(物理基礎、物理)」 「化学(化学基礎、化学)」	1科目を選択	3限(80分)	100点		
	英語	「英語(英語コミュニケーションI, II, III, 論理・表現I, II, III)」		1限(70分)	100点		
	数学	「数学(数学I, II, A, B, C)」		2限(90分)	100点		
M日程(後期)【2教科・2科目型】	理科	「物理(物理基礎、物理)」 「化学(化学基礎、化学)」	1科目を選択	3限(80分)	100点		
	英語と理科から1教科1科目を選択						
	面接 等 ※複数日程で第一次選考を通過した場合でも第二次選考は一度のみの受験となります						

■出願資格・条件

- 【S日程(全学統一)のみ】出願時に高校等の活動記録[高校等での生活や今までの間で、あなたが特に力を入れてきたこと(勉強・課外活動・その他)やそれを通して学んだこと・身につけたこと]を記述(入力)すること(200字程度)。
- 合格後、3/25(木)までに航空身体検査証明(第1種相当)の適合を証明する書類、あるいは基準に適合する見込みがあることを証明する書類を提出すること(コピー可)。
- ※2026年9月1日以降に受診・発行されたものに限る。
- 合格後、3/25(木)までに航空機操縦練習許可書のコピーを提出すること。提出時までに交付が間に合わない場合は、航空機操縦練習許可申請書のコピーを提出すること。
- オルソケラトロジーによる矯正を行っていないこと。
- 右記の英語外部試験、検定試験のいずれかにおいて、基準スコア以上を保持していること。

【注意事項】各入試の詳細情報は、出願前に必ず入試ガイドや本学入試サイト、入学試験要項でご確認ください。

実用英語技能検定(CSE)	TOEFL®		TOEIC® L&R	TOEIC® L&R+TOEIC® S&W	GTEC(4技能)	TEAP RLWS	IELTS™
	iBT	PBT					
1800	38	425	400	575	850	186	3.5

※2025年2月以降に実施された英語外部試験に限り、有効とする。
※出願時にスコアの原本またはコピーの提出が必要。
※GTEC(4技能)はOFFICIAL SCOREの成績のみ有効とする。

先進工学部 機械理工学科 航空理工学専攻の入学試験に関する情報は、工学院大学入試サイトでご確認ください。
<https://www.kogakuin.ac.jp/admissions/>



【お問い合わせ先】
アドミッションセンター(新宿キャンパス)
tel: **03-3340-0130**
e-mail: nyushi@kogakuin.ac.jp

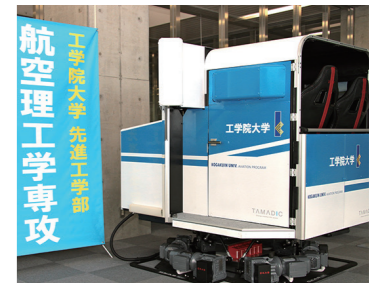
設備

キャンパス内でも訓練が積める！ 八王子キャンパスに3台のフライトシミュレーター

実機訓練期間以外の時期に八王子キャンパスでフライトシミュレーターを使用した訓練ができます。固定翼複座1台(6モーション)、回転翼複座1台(6モーション)、固定翼単座1台(4モーション)を設置。資格取得に向けて、確実なステップアップが可能です。



回転翼複座FTD



固定翼複座FTD

海外資格取得のための海外提携校

Hillsboro Aero Academy ★ Oregon

飛行訓練地:ヒルズボロ空港(アメリカ・オレゴン州)



Hillsboro Aero Academy

オレゴン州ヒルズボロに本部を置く西海岸最大のフライングスクール。日本人教官も在籍し寮も完備しており、安心して学ぶ環境が整っています。

- 開設コース
- ・エアラインパイロット指定校推薦コース
 - ・JCAB事業用海外ライセンスAコース
 - ・JCAB事業用海外ライセンスBコース
 - ・FAA事業用・CFIコース

日本航空(株)(JAL)との連携による高品質な養成課程でエアラインパイロットをめざす

エアラインパイロット 指定校推薦コース

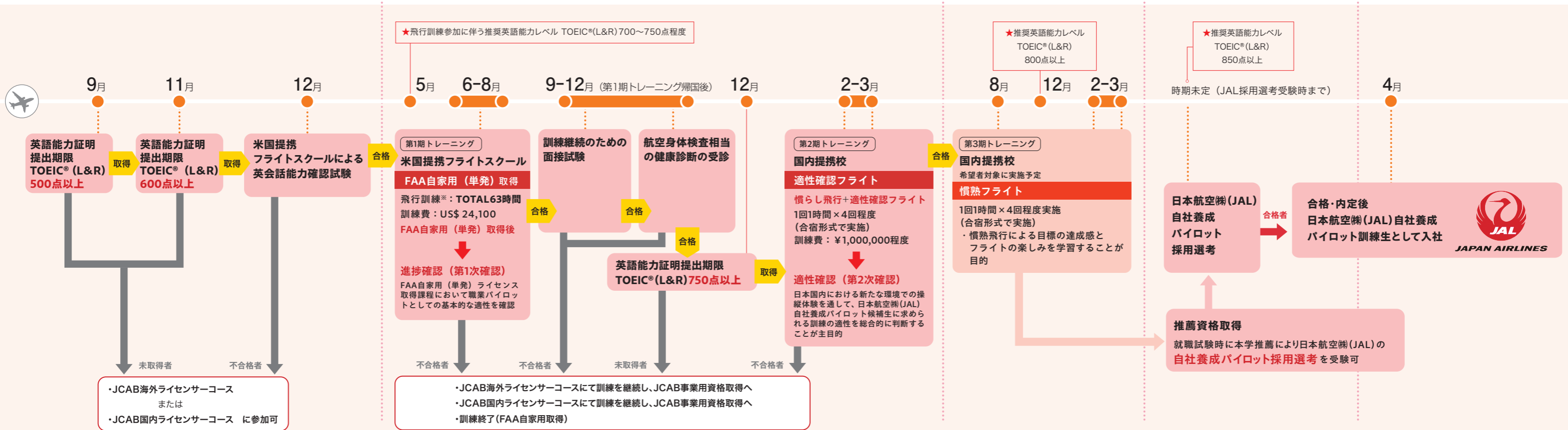
1年次 11-5月
海外提携フライトスクールが実施する英会話能力確認試験合格後、渡米までの期間、FAA自家用ライセンス取得のための学科試験対策や英語学習を各自で実施（訓練コースごとに特別授業等を実施する場合があります）

2年次 6-8月
先進工学部
ハイブリッド留学[®]

3年次

4年次 3月
学士号取得

卒業後 4月



本コース申込および推薦資格取得に際しての重要注意事項（必要条件）

- 【必須条件】
- 1年次9月までにTOEIC® Listening & Reading Test 500点以上を取得すること（証明書提出）。^{※1}
 - 1年次11月までにTOEIC® Listening & Reading Test 600点以上を取得すること（証明書提出）。^{※1}
 - 2年次12月までにTOEIC® Listening & Reading Test 750点以上を取得すること（証明書提出）。^{※1}
 - 1年次12月に米国提携フライトスクールが実施する英会話能力確認試験に合格すること。
 - 本学が指定する期日までに、進捗確認（第1次確認）合格者を対象に実施する訓練継続のための面接試験および本学が定める付加的な要件を含む航空身体検査相当の健康診断に合格していること。
 - 本学が指定する期日までに本学の提携する米国フライトスクールにて、FAA自家用（単発）ライセンスを取得のうえ、進捗確認（第1次確認）および適性確認（第2次確認）に合格していること。 ●本学を卒業見込みの者。
- 【推奨要件】
- 資格取得のための飛行訓練および各種試験（筆記・口述・実技・無線等）はすべて英語で行われ、かつ、渡航前の事前教育も英語が主となるなど、相当の英語力が求められるため、渡航前より推奨英語能力レベル★を設定しています。
 - 2年次5月までにTOEIC® Listening & Reading Test 700~750点程度を取得すること。
 - 3年次12月までにTOEIC® Listening & Reading Test 800点以上を取得すること。
 - 4年次の日本航空(株)(JAL)が実施する自社養成パイロット採用選考受験時までに、TOEIC® Listening & Reading Test 850点以上を取得すること（証明書提出）。
- 訓練時間・期間は天候および個人の技量等により変動する場合があります。また、記載の飛行訓練時間は、あくまで平均的な訓練時間です。訓練時間は修得状況により個人差があり、追加費用が発生する場合があります。
- 留学時の米国や米国連邦航空局、提携フライトスクールおよび海外情勢、提携エアライン等の事情により実施できない場合があります。^{※2}
- 渡航に際し、ビザの取得ができない場合は本コースで訓練を受けることができません。^{※2}
- 渡航の際に必要なビザ申請において、操縦訓練費用（総額）や滞在期間中に必要な生活費など、米国滞在中のあらゆる費用を賄う十分な資金があることを証明する預金残高証明書の提出が必要です。
- 渡航（米国内での操縦訓練）に際し、FAA Medical Certificate (3rd class以上)の取得が必要です。診断書の取得ができない場合は本コースで訓練を受けることができません。^{※2}
- 渡航（米国内での操縦訓練）に際し、Flight Training Security Program (FTSP)にフライトトレーニングの許可申請が必要です。飛行許可が下りない場合は本コースで訓練を受けることができません。^{※2}
- 所定のトレーニング期間内に指定されたライセンスの取得ができない場合、コースアウトとなる場合があります（その場合、他の訓練コースに移行して資格取得をめざすこととなります。これに伴い訓練費用は増額となります）。
- 進捗確認（第1次確認）に合格しても、その後実施する訓練継続のための面接試験および本学が定める付加的な要件を含む航空身体検査相当の健康診断に合格できない場合、コースアウトとなります（その場合、他の訓練コースに移行して資格取得をめざすこととなります。これに伴い訓練費用は増額となります）。
- 記載の飛行訓練内容、飛行訓練時間・期間および訓練費は、2026年5月1日時点のものです。今後、諸状況により予告なしに変更、追加することがあります。
- その他、渡航先の入国条件がクリアにならない場合には、本コースは継続できません。
- 推薦資格取得者であっても日本航空(株)(JAL)が実施する自社養成パイロット採用選考の合格・内定を保証するものではありません。
- ※1 TOEIC®(L&R)スコアは、本学入学後に取得したものを有効とします。
- ※2 そのような場合、国内ライセンスコースを活用しての資格取得をめざすこととなります。これに伴い訓練費用は増額となります。

取得できる免許・資格 ■FAA自家用資格

※ 飛行訓練には飛行訓練装置による訓練時間を含みます。また、資格取得の課程で学科教育があります。

本コースの特徴 ※詳細は「本コース申込および推薦資格取得に際しての重要注意事項（必要条件）」をご確認ください。

- POINT 1** 日本航空(株)(JAL)とともに設計したコースで高品質な訓練を受けられる！
- POINT 2** 米国 (FAA) の自家用操縦士ライセンスを取得し適性確認フライト（適性確認）に合格すると本学推薦により日本航空(株)(JAL)の自社養成パイロット採用選考に挑戦できる！
- POINT 3** 圧倒的に低く抑えた訓練費で本コースをチャレンジできる！



TOPIC

卒業生が日本航空株式会社（JAL）に就職

2025年4月、本コースにおける訓練を修了した卒業生が日本航空株式会社（JAL）に入社しました。

中野愛斗さん（2025年3月卒業）は、在学中に米国での操縦訓練（第1期訓練）においてFAA自家用操縦士ライセンスを取得。帰国後は国内での適性確認（第2期訓練）にも合格し、本コースの全カリキュラムを修了しました。その後、本学推薦によりJAL自社養成パイロット採用選考に挑戦し、見事合格。エアラインパイロットへの道を切り拓きました。

本コースでは、段階的な訓練と継続的なサポートを通じて、学生一人ひとりの進路実現を支援しています。